

性土層ではあるものの、人工地層であり十分に締まってないと判断したため、有効間隙率は40%とした。

表 3.2.2 有効間隙率参考値（未固結地盤） 水理公式集（1974）より

地 層	間隙率	有効間隙率	地 盤	間隙率	有効間隙率
沖積礫層	35	15	洪積砂礫層	30	15~20
細砂	35	15	砂層	30~40	30
砂丘砂層	30~35	20	口-ム層	50~70	20
泥粘土質層	45~50	15~20	泥層粘土層	50~70	5~10

掘削調査地点で新たにモニタリング孔を設置した際に行った透水試験では、B2層（埋土層）で $1.25 \sim 1.57 \times 10^{-3} \text{cm/sec}$ 、その下位のDs1層で $1.8 \times 10^{-3} \text{cm/sec}$ の透水係数が得られた。これは、『汚染メカニズム中間報告書』で使用した透水係数（埋土： $1.0 \times 10^{-3} \text{cm/sec}$ 、砂層（Ds1： $3.0 \times 10^{-3} \text{cm/sec}$ ））とほぼ同等であったため、透水係数は変更しなかった。

不飽和帯における不飽和特性曲線については、『汚染メカニズム中間報告書』の地下水広域シミュレーションの値を使用した（図 3.2.1）。

砂質土（沖積砂層：As）

粘性土（埋土層：B1、B2）

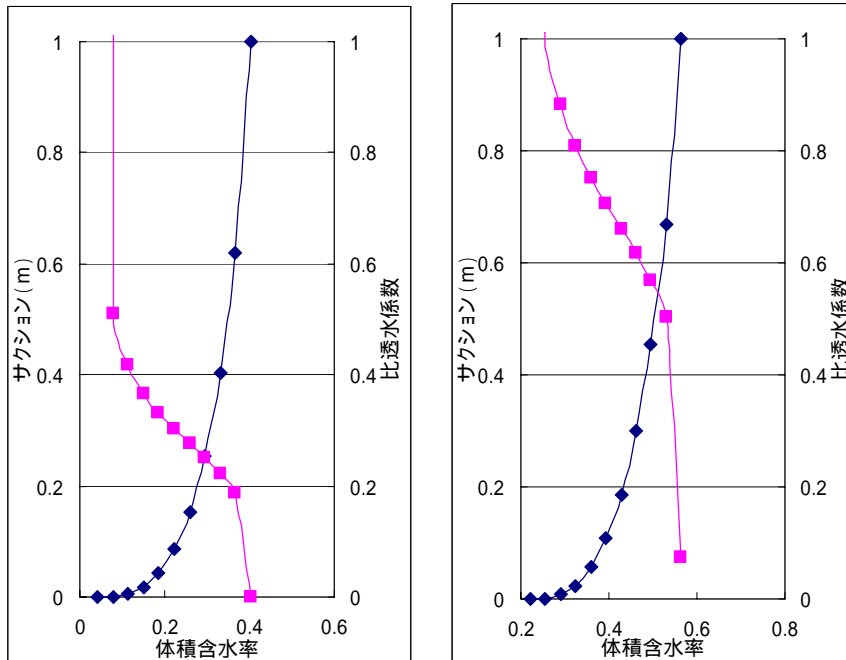


図 3.2.1 不飽和特性曲線（左：As、右：B1、B2）